

令和3年度 静岡県産業教育振興会産業視察 報告書

静岡県立静岡農業高等学校 戸澤 莉穂

1. はじめに

現在、私は農業クラブ関係競技の農業鑑定競技・畜産部門の指導に当たっている。畜産部門では牛・豚・鶏が主な範囲になっている。本校では、愛玩動物を飼育している関係上、牛・豚は飼育していない。この状態では、指導するにも現場での様子や、実物を見たことが無いため、指導が出来ないのが現状である。また、近年は静岡県立農林環境専門職大学への進学している卒業生も多く、愛玩のみではなく畜産にも興味を持つ生徒が増加している背景があるため、より畜産について理解を深める事が大事と考えた。そこで、今回は酪農関係の施設を重点的に視察することにした。

このことから、見学地を県内から選出し、令和元年度に竣工された「沖之須牧場」と家畜関係の様々な研究を行う「畜産技術研究所」を見学地として選定した。

2. 現地視察報告

① 沖之須牧場

令和3年7月29日に視察を実施。約300頭の乳牛と約60頭の子牛を飼育し、牛乳生産や出荷を行っている。また、牛舎はフリーバーン式の横210m、縦16mと細長い牛舎で、搾乳牛、分娩直後牛、乾乳牛、治療牛などに区分されている。搾乳システムもパラレル型の最新式パーラーを使用しており、4時間以内で300頭の搾乳を行っていた。

農場長の西川様によるお話を伺い、現在の酪農家の離農が進み、牛乳を生産する酪農家が減っているとお聞きした。そのため、沖之須牧場で、安心・安全な牛乳を生産すること、また若い世代を採用・育成し、後に独立して牧場を建ててもらえたらという思いも伺った。

この沖之須牧場には、本校の卒業生が勤務していた。県内一の大規模な施設と頭数に圧倒された。高校生に酪農の魅力を伝え、興味を持った生徒には積極的に体験や見学に行かせたいと感じた。

② 畜産技術研究所

令和3年8月5日に視察を実施。ここでは、酪農科・肉牛科・飼料環境科とある。飼養管理だけではなく、ITを活用した研究、雌牛生産に向けた性判別精液利用技術、牧草飼料の栽培、家畜糞尿の利用の研究などといった様々な研究が行われていると伺った。施設見学では、搾乳システム（ヘリングボーン）、多くの農業機械（フォーレージャーハーベスタなど）、繁殖器具（かん子・ちつ鏡など）、飼育器具（焼きごてなど）

など、多くの設備・器具の見学・説明を丁寧にしてくださった。

特に家畜糞尿の活用には、本校でも堆肥として活用されてはいるが、行き場が常にあるわけでは無い。今回の視察の件で、家畜糞尿の活用方法の研究のお話を伺う事が出来、今後の活用方法の参考にさせていただこうと思った。

3. 終わりに

今回の視察で牧場や研究所を見学して、教科書で読む事しかなかった酪農施設や設備を見ることが出来た。また、牧場見学の際に農場長の方から畜産農家の現実や乳牛の説明を、詳しく話して下さり非常に勉強になった。

家畜に対しては、「かわいい」だけではなく、時に決断をしなければならないというお話も聞き、改めて命を頂くという事に感謝をしなければいけないと感じた。また、この事を生徒にも伝え、命を扱う責任についてしっかり指導していこうと思う。

視察を通して、将来の動物産業に携わる人材を育成したいと考えるきっかけになった。



【写真1】沖之須牧場 搾乳施設



【写真2】畜産技術研究所 フリーストール牛舎